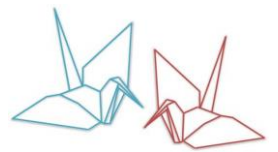




芝小だより

第三月号

発行所 港区立芝小学校
〒105-0014
港区芝 2-21-3
[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)
[FAX:03-3456-3071](tel:03-3456-3071)



「三月に思うこと、忘れてはいけないと」(再)

校長 齋藤幸之介

本年度は、本校開校百四十周年記念行事が多く行われました。卒業式が残されておりますが、先日行われました東海大学付属高輪台高等学校吹奏楽部の皆様の多大なる御尽力によるコンサートは、一年を締めくぐる有難い行事の一つとなりました。詳細は「副校長より」をお読みいただきたく思います。私は百名の部員の皆様の奏でる音を聴きながら、「平和」を感じておりました。

そして、昨年度私がお伝えした学校だよりを思い出しておりました。三月には、東日本大震災そして東京大空襲について改めて考えるべきであると捉えております。

「道路が燃えた」ー東京大空襲

一九四五年三月の東京大空襲の恐ろしさは様々な形で伝えられていますが、本校が全焼した五月二十五日の空襲も本当に恐ろしいものであったようです。私は、五月の空襲の恐ろしさを本校卒業生の小沼松良様よりお教えいただきました。空襲によってアスファルトの道路が燃えたこと、道路わきにあった木製の電信柱が倒れて柱の上にあったトランスという部品から油が広がって道路一面が火の海になったこと、百四十周年記念誌の「座談会」にも記されています。周囲を炎に包まれながら「布団一枚かついで逃げるのが精一杯」であったという小沼様のお話を伺いながら、空襲は私の

想像をはるかに超える恐怖をもたらした、と言葉を失ったほどです。同時に、本校の歴史にも位置付けているこの惨禍を忘れないためにも、小沼様のお話を子供たちにぜひ引き継いでいってほしい、と強く願っています。

改めて「東日本大震災」とその後

東日本大震災から八年が経とうとしています。大きな被害を受けた地域の復興はどのくらい進んでいるのでしょうか。

「復興の現状と課題」(平成三十一年、復興庁)によれば、避難者が当初の四十七万人から五万四千人に減少、宅地造成は二〇一八年度末には概ね完了予定、産業に関してはかなりの水準まで回復、と確実に歩んでいる様子が分かります。しかし、例えば風評被害を完全に拭い去るまでには至っていないことや帰宅困難区域も残っていることも現実であり、これからも復興・再建に向けての大きな努力は払われることとなります。そして、何よりも、被害に遭われた方々のお気持ちを考えますと、復興という言葉の用い方も深く考えるべきかとも思うところがあります。

東日本大震災後、熊本地震や北海道胆振東部地震を始め、規模の大きな地震も発生しています。先週二月二十一日にはやはり北海道胆振地方で地震が発生しました。半年も経たないうちに再度起こった大きい地震に住民の方々の不安なお気持ちはいかにばかりか、と心が痛む思いです。

自然災害は防ぎようのないものでありますが、誰もが安心・安全を願っています。そのために、私共は何ができるのかを改めて考えたいと思います。

改めて考える「今できること」とは(再)

この項は、昨年度も用いております。私は、僥倖ながら「忘れない」ことを挙げました。

「平成の時代が終わる」と盛んに言われております。日本に戦争が起こらなかつた時代、とも言われます。先達が数々の御経験からを基に平和に導いてくださった、と感謝をしい気持ちです。一方で、例えば刻々と変化する世界情勢の中で、私共の考えや行動が問われている、と感じています。芝の地に生きる私共は、小沼様のお話を忘れず、恐れ多くも、平和を求めるための努力の大切さを、考えたく存じます。そして、子供たちも平和でいるためにすべきことを考えられるよう、本校でできることを明らかにしたいと思います。

また、自然災害に備えるべく、日々の努力を怠らないようにしたいと考えています。先日行った、子供たちにも教職員にも予告をしなかつた避難訓練では、行動が滞る場面が見られました。危機意識が欠落していた、と教職員一同大いに恥じ、現在改善策を検討しています。過去に学びながら、子供たちの安心・安全を保障すべく取り組んでまいります。

未筆になりますが、本年度は開校百四十周年記念式典を始めとする教育活動全般に御理解と御協力を賜りましたことに心より感謝を申し上げます。これからは、「次」に向け、焦らず、確実に前進していく所存です。私共は、何よりも子供たち一人一人を大切にし、皆様に愛していただける学校を創り上げたいと思っております。今後共ごきょうぞうしくお願い申し上げます。

